

一 皆悉到於一切智地の事

仰せに云はく、一切智地と云ふは法華經なり。譬へば三千大千世界の土地・草木・人畜等皆大地に備はりたるが如く、八万法藏十二部經ことごと悉く法華に歸入せしむるなり。皆悉の二字をば、善人も悪人も迷ひも悟りも一切の悪業ぜんごうも善業ほかも、其の外薬師・大日・弥陀並びに地藏・観音、横に十方たて豎に三世、有りと有る諸仏の具徳、諸菩薩の行徳、総じて十界の衆生の善悪業作等を皆悉と説けり。是を法華經に歸入せしむるを一切智地の法華經と申すなり。されば文句の七に云はく「皆悉到於一切智地とは、地とは実相なり、究竟して二に非ず、故に一と名づくるなり。其の性こうばく広博なり、故に名づけて切と為す。寂にして常に照らす、故に名づけて智と為す。無住の本より一切法を立りゅうす、故に名づけて地と為す。此円教の実説なり。凡そ所説有るは皆衆生をして此の智地に到らしむ」と。此の釈は一切智地の四字を委しく判ぜり。一をば究竟と云ひ、切をば広博と釈し、智をば寂而常照じやくにじょうしょうと云ひ、地をば無住之本と判ぜり。然るに凡有所説は約教を指し、皆令衆生かいりょうしゅじょうは機縁を納るなり。十界の衆生を指して切と云ひ、凡有所説を指して究竟くきょう非二故名一也と云へり。一とは三千大千世界十方方法界を云ふなり。其の上に人畜等有るは地なり。記の七に云はく「切をば衆に訓くんず」と。仍って一切の二字に法界を尽くせり。諸法は切なり、実相は一なり。所詮法界実相の妙体、照而常寂の一理にして、十界三千一法性ほっしょうに非ずと云ふ事無し。是を一と説くなり。さて三千の諸法の己々に本分なれば切の義なり。然らば一は妙、切は法なり。妙法の二字一切の二字なり。無住之本は妙の徳、立一切法りゅういっさいほうは法の徳なり。一切智地とは南無妙法蓮華經是なり。一切智地即一念三千なり。今末法に入りて一切智地を弘通するは日蓮等の類たぐい是なり。然るに一とは一念なり、切とは三千なり。一心より松よ桜よと起こるは切なり。是は心法に約する義なり。色法にては手足等は切なり、一身なるは一なり。所詮色心の二法、一切智地にして南無妙法蓮華經なり云云。